

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-133	14-079	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
題名（原題／訳）		
In utero exposure to alcohol and puberty in boys: a pregnancy cohort study. 男子における胎児期のアルコール暴露と puberty について：妊娠コホート研究		
執筆者		
Håkonsen LB, Brath-Lund ML, Hounsgaard ML, Olsen J, Ernst A, Thulstrup AM, Bech BH, Ramlau-Hansen CH.		
掲載誌		
BMJ Open. 2014 Jun 10;4(6):e004467. doi: 10.1136/bmjopen-2013-004467.		
キーワード		PMID
飲酒、子宮内曝露、春機発動		24916086
要 旨		
<p>目的： この疫学的研究は、胎児期のアルコールの子宮内曝露が生殖器官に与える影響について、検討することを目的とする。母体の生活習慣要因は puberty において影響を与えるが、出生前のアルコール暴露が男性の puberty (※訳者注 一般に思春期や春機発動と訳されることが多いが性成熟[第二次性徴]期)へ及ぼす影響については不明である。このように、本研究は、出生前のアルコール暴露は男の子に puberty に影響を与えるかどうかを明確にすることを目的として行った。</p> <p>方法： デンマークの妊娠コホートのフォローアップを用いて、1984年から1987年の間にデンマークの妊娠コホートに参加した女性たちの息子 2,522 人で調査を実施した。puberty の指標として夢精の初回年齢、声変わり、にきび、定期的な髭剃りを用いた。</p> <p>結果： 妊娠中の 5 杯以上の飲酒によって、初回の夢精は 7.3 か月 (95%CL 2.8-17.4)、声変わりは 4.9 か月 (95%CL 0.6-10.4)、暴露していない男の子よりも遅くなることが分かった。平均的な週間の飲酒は同様の傾向を示したが、違いは小さく有意ではなかった。</p> <p>結論： 毎週飲酒による胎児期の子宮内曝露によって男児が将来の性成熟へ影響を与えるという仮説を強く示唆する結果ではなかった。しかし妊娠期の大量飲酒が胎児の思春期の成長を遅らせるという事が明らかになった。さらなる縦断調査が必要である。</p>		